

水産増殖学特論（2単位）

担当者氏名 渡邊研一・高橋 潤

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

地球規模での人口増加と食料需給の逼迫に伴い、世界各国で水産資源の枯渇が問題となっている。農・畜産業のように、人手をかけることによって水産物を生産する、あるいは生産を促すことは、今後の水産業においてますます重要な位置を占めると考えられる。なかでも、卵・稚仔の供給、環境汚染、餌料の確保等の諸問題を考えると、自然の生産力を活用する「増殖」という考え方はもっとも期待度の高いものと言えるだろう。授業では、我が国の現在の水産業において「増殖」の占める位置や、より具体的な「増殖」の内容についての基礎を学び、水産業をより深く理解することを目的とする。

◆取り扱う領域（キーワードで記載） ご自身のキーワードを記入してください

増殖 魚介類 繁殖 種苗生産
 病気対策 資源管理

◆授業の進行等について

	テ ー マ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
	ガイダンス（第1週）	・本特論の受講に関するガイダンス	◎本授業では、水産増養殖に関わる基礎知見とそれを利用した応用技術について、教員のみならず、学生相互においても意見交換しながら授業を進める。したがって、前回の授業で指示された事項についての予習および復習を十分行うこと。
	生育環境（第2～3週）	・主要魚介類の生育環境について	
	生理特性（第4～5週）	・生理特性について	
	生活史（第6～7週）	・生活史について	
	繁殖（第8～9週）	・繁殖について	
	種苗生産（第10～11週）	・種苗生産について	
	養殖技術（第12～13週）	・養殖技術について	
	病気対策（第14～15週）	・病気対策について	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

別途指示する。

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

別途指示する。

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

授業における意見交換内容とレポートを100%として評価する。

◆オフィスアワー

いつでも良いが、事前にメール等で希望日時を連絡すること。

◆その他受講上の注意事項

学んだことをきっかけとして、自ら課題を解決するための努力が必要である。